丸山古墳の発掘調査に関する陳情書

丸山古墳の発掘調査に関する陳情

丸山古墳の発掘調査の許可に関し、福井県のご協力を頂きますよう陳情いたします。

１．発掘許可

県の発掘許可、地権者である福井市の発掘の同意

２．福井県教育庁埋蔵文化財調査センターの協力

発掘計画の監修、発掘業者の選定、出土品の鑑定・保全管理、など

私たちは邪馬台国越前説を唱えています。そして丸山古墳を「卑弥呼の墓」と断定し、発掘計画を推進しています。

越前説の根幹は、弥生時代におけるこの地の農業生産高が、日本最大だったという事です。もちろん農業生産の数値化は、１７世紀の江戸時代に「石高」という形で初めて算出されましたので、それ以前の農業事情は推測するしかありません。

定性的には、越前・福井平野は巨大な淡水湖が干上がった天然の水田適地です。驚くほど平坦で極端に水はけが悪く、稲作を大規模に行うには最高の土地です。これと同じような性質を持つ土地は、古墳時代以降に日本の中心地となった近畿地方です。大阪東部の河内平野にも巨大淡水湖があり、それが干上がって古墳時代の黄金期を迎えました。さらに奈良盆地南部にも巨大淡水湖があり、飛鳥時代に黄金期を迎えました。

福井平野の場合は近畿地方よりも一足先、すなわち弥生時代には淡水湖の水が引き、広大な水田適地が広がり、人口爆発が起こり、邪馬台国という超大国がこの地に誕生したのです。

定量的にも、越前・福井平野が日本最大の穀倉地帯だった事が分かります。それは、江戸時代の石高推移から顕著に見られます。添付資料の通り、江戸時代初期の越前の石高は日本有数の６８万石でした。面積規模の小ささからは、異常に高い数字です。ところが、２６０年後の明治時代には僅か１万石しか増えていません。これは、天然の適地だったが故に古代から大いに土地活用が行われていた為で、石高が高止まりしていたのです。

この石高推移から邪馬台国時代の石高を推測すると、越前は６４万石となります。これはすなわち、６４万人もの人口が弥生時代には既に存在していた事になります。

福井県の弥生時代の様子は、福井県に住む皆様にとっては当たり前の事でしょう。釈迦に説法のような内容になってしまって、申し訳ありません。

日本最古の超大国だった越前の国において、魏志倭人伝の記述に一致する丸山古墳。是非、発掘調査をお願い致します。

福井県議会議長 畑孝幸 様

令和３年５月 11 日　　陳情者　　神奈川県横浜市中区

卑弥呼の墓発掘プロジェクト　代表

添付資料　１部

電話：090-